



認知症は早期なら進行を止められる 後悔しないためにまず検査を



西村内科脳神経外科病院
理事長 **西村誠一郎先生**
脳神経外科学会、内科学会、
糖尿病学会会員

アルツハイマーは飲み薬で進行を遅くできる

——「最近もの忘れが激しく、勘違いも多い：自分は認知症なのではないかと不安になることがある」という声をよく耳にします。

西村 認知症とひと口に言ってもさまざまな症状があるんですよ。認知症は大きく3つに分かれ、中でも約半分がアルツハイマー、20%がレビー小体病、20%が脳血管性痴呆と言われています。それぞれ原因が異なり、治療法も異なります。脳神

経自体が変化するアルツハイマーや、レビー小体病は飲み薬で進行を遅くする治療が可能です。まずは症状が軽いうちにメンタルテストやMRIで認知症の程度を知ることが大事ですね。

——では「脳血管性痴呆」は？

西村 前の二つとは違って予防できる認知症です。この認知症は脳の血管が詰まることによって神経系に障害が及び、認知症が現れるものです。主な

原因は動脈硬化です。ですから、予防法としては高血圧、糖尿病、高コレステロールを避けることです。

——脳血管性痴呆は発症する前に危険因子を取り除けば、認知症になることは免れるのですか？

西村 ええ。ですから「なってしまうと後悔が残る認知症」と言える手術で治る認知症

「正常圧水頭症」「慢性硬膜下血腫」

西村 また、3大認知症疾患以外に「治る認知症」があります。それが「正常圧水頭症」と「慢性硬膜下血腫」です。正常圧水頭症は頭の中に水がたまる病気で、歩行障害や尿疾患などが起こります。慢性硬膜下血腫は頭を打ったりなどした1〜2カ月後に血がたまって認知症と同じような症状が出てくるというものです。

思います。発症のリスクを抑えるためには、まずは自分の状態を知ることがです。具体的には、超音波で首の血管を調べる、MRIで脳の状態を調べる、メンタルテストといった方法があります。

——メタボリックシンドロームが増えていることを考えると、この認知症は怖いですね。

西村 もの忘れや勘違い、「あの人のことが思い出せないなんて！」など気になってきたらまず受けることが一番。認知症がほかの疾患と違う点は、進行してけると自分自身の状態がわからなくなってしまうということです。心配だと思っていいるうちはまだ治療する望みがあります。それに、何もなければそれはそれで心配もなくなりますし、まずは50代を過ぎたら気軽にMRIを受けてみてはいかがでしょう。